

麻酔や手術に影響を及ぼす 健康食品・サプリメント

川口市立医療センター
やま もと ゆう すけ
麻酔科 **山本 悠介**



日頃から健康食品やサプリメントを摂取されているかたも多いと思いますが、それらの一部が麻酔や手術に影響を与える可能性があることを知っていますか。

健康食品やサプリメントの一部は、血液をサラサラにして術中・術後出血の危険性を高めたり、麻酔薬・治療薬の効き目や、中枢神経や心臓に影響を与えたりすることがあります。例えばイチョウ葉、ビタミンE、魚油(EPA・DHA)、ニンニク、薬用ニンジン、ノコギリヤシなどは出血の危険性を高める可能性があります。また、セントジョーンズワート、バレリアンなどは麻酔薬の作用を強めてしまう可能性があります。さらにこれらの影響には、通常の手術前検査では分からないものも多数あります。そのため、これらの有害作用が発生した際に原因が分からず対応に困難を伴うこともあります。

医薬品とは異なり、健康食品やサプリメントは「天然由来のものだから」、「市販されているものだから」、「体にいいものだから」といった思い込みから、病院スタッフに報告せず手術までそのまま服用されているかたも見受けられます。手術まで服用を継続していると麻酔や手術に影響したり、手術が延期になったりする可能性があります。安全に手術を受けていただくために、術前に服用を中止させる場合があります。

手術を受ける予定のあるかたは、処方された医薬品だけでなく摂取している健康食品やサプリメントなども医師や薬剤師にお伝えください。

がんは身近な病気です。

～生活習慣の見直しと、定期的ながん検診を～

現在日本人の2人に1人ががんにかかるといわれていますが、がんは生活習慣の見直しによって「なりにくくする(予防する)」ことができる病気です。



禁煙と、アルコール・塩辛い食品・加工肉を控えて野菜・果物を適度に摂取し、運動を定期的に行うなどの生活習慣の改善ががん発生のリスクを下げると考えられています。

がん検診を受けましょう

がんを予防する生活を心がけていても、完全に防ぐことはできません。

自覚症状がないうちからがん検診を受けることによって、早期に発見される可能性が高まります。去年のがん検診で発見されなかったがんが今年発見されることもあります。定期的ながん検診を受けましょう。

今年度の市のがん検診は、令和2年2月末まで実施しています。



川口市けんしんガイドブック

問 地域保健センター

☎048-256-2022 FAX048-256-2023

イベントスケジュール

6日(日) →2・3ページ **10月**

炬火台設置記念式典
場 キュボ・ラ広場

12日(土)～14日(祝) →6ページ

川口グリーンフェスティバル2019
場 グリーンセンター

13日(日)・14日(祝) →14ページ

日本女子プロ野球リーグ
川口市市民応援デー
埼玉アストライア戦
場 青木町公園総合運動場野球場



20日(日) →29ページ

第18回ボランティア見本市
場 川口西公園

25日(金)～27日(日) →4・5ページ

川口市市産品フェア2019
場 SKIPシティ

2日(土)・3日(祝) →14ページ **11月**

第28回緑と大地の豊年まつり
場 植物取引センター、川口緑化センター

17日(日)
荒川ふれあいまつり2019
場 浮間ゴルフ場



人生を懸けた挑戦

ナンス工業株式会社

代表取締役

みなみ 南 平次さん
(弥平)

70歳のとき、高齢者によるアクセルとブレーキの踏み間違ひ事故のニュースが目に見え、心打たれた。その悲惨な情景に衝撃が走った。理由があり免許返納ができない高齢者もいるだろう。踏み間違えても急発しない装置があれば…。「これは人生を懸けて開発しなければならぬ」。早速、翌日から構想を開始した。

冬は銀雪に包まれる富山県氷見市で生まれ育った。小学生のころ、夏休みの宿題で木工のおもちゃを作製。その緻密な仕組みを両親が褒めてくれたことがきっかけでものづくりが大好きになった。高校は木工科で木工のノウハウを学び、卒業後は集団就職で東京。家具販売業に就き修理もこなした。それから燃料店、自動販売機や飲食店のビルサーバー設置・メンテ

ナンズ業を経営。仕事現場に近かった川口市に移り住んで37年が経ち、そろそろ会社を畳もうかと考えていたときに、あのニュースを目にした。「踏み間違ひ事故による負傷者・死者をゼロにする。これは使命だ」と語る。来る日も来る日も、装置のことを考え続けた。開発の邪魔をしないよう、家族はヘッドホンを使ってテレビを見るようになった。とにかく思いついたものを試作しては失敗し、構想から2年。ついに「アクセルペダル誤動作解消装置」が完成した。前進、バック共にアクセルを強く踏んだときにアクセル機能がオフになり、ブレーキ機能が働く仕組みだ。この装置を多くの人に知ってもらおうと、宣伝映像をテレビ局に持参して番組



に取り上げてもらえるようお願いしたが門前払い。そんな中、またも踏み間違ひによる大きな事故が起きてしまった。皮肉なことにとこれをきっかけに装置のことが認められ問い合わせは殺到したが、心の中にはその事故を防げなかった悔しい思いがあった。

「私の人生の始まりは70歳。それまではこの装置を開発するための修行期間でした。従業員は自分一人。装置一つ作製するのに時間もかかるが、一日でも早く届けたい」。事故をなくし、命を守ることを諦めないその熱意は、きつと人々の心に届くに違いない。(彩)